る。8日は午後3時から6時半までEボートも運航。午後4時から、音楽やジャグリングなどのステージを楽しむ。JA向日市の「まちづくり市民の会」主催の地域イベント「7・72つなぐ」が2日正午から向日神社で開かれる。体主催による駅伝あり大会、絵灯籠づくり、ふるさと歴史紙芝居、福島こども応援プロジェクト、プルトップ虫づくりの悠久の歴史に思いをはせる。23日は大学生によるカフェなどがある。また、22日は午後3時ごろから「夏のえごまフェス」を開催する。ライブやエコマのスイーツと飲み物（計20円）販売もある。

※離宮八幡宮の津田さん（957）0336

乙訓歯科医師会から健康教室

Dental Association Otokuni

生きる力を支える生活の医療としての歯科医療

この度、京都府乙訓歯科医師会会長に就任いたしました加藤清道です。どうぞよろしくお願いいたします。これからの2年間、乙訓歯科医師会の会員の先生と共に地域の歯科医療の向上に微力ではありますが貢献したいと考えております。

さて、昔と今では病気の構造が変わってきています。それは、かつてはペストやコレラなどの病気を治療し、病気から守ることが中心でした。しかし社会的インフラが整備され、これらの病気は減少しています。ところが時代が変わり、現れたのが生活習慣病です。生活習慣病は慢性疾患が多く、その治療に際し患者さんに合わせた対応が必要となり、その人の生活を中心に治療方法を決めていくことが求められています。

歯科医療でも、高齢化社会を迎えた現在、診療所でむし歯や歯周病を治療することを目的としてきた医療から口から食べられるようにすること、生活を支え人生を豊かなものにできるように支援する医療へと変化してきています。そして診療する範囲を口腔全体に拡げ、咀嚼機能、嚥下機能の治療と、その質を高めています。

歯の治療から食べる幸せへ

また、自立が困難な人には、その人の望むところへ出向いていく訪問診療もごく普通に行われるようになりました。

高齢化社会の到来により「治す治療」とともに「暮らしの中での医療」の重要性が増しています。そのような状況の中、歯科医師会でも歯科医療の目的を　歯の治療から食べる幸せへ　と拡げ、その活動も診療室のみならず地域社会へと展開し「生きがいを支える歯科医療」として地域住民と共に実践する目標を掲げています。

ところで、数年前になるのですがある雑誌でシニア世代に対し、健康に関して何か後悔しているかどうかの調査をしたところ「歯科の定期検診を受けておけばよかった」という回答が、男性ではトップ、女性でも4位という結果が出ました。皆さんはどうでしょう？

最後に日本歯科医師会が、〝日本の歯科医療をもっと生活の中へ〟と題したアピールを紹介しておきます。

歯が丈夫な人は長生きする、というデータがある。キチンとした口腔ケアをすると、病気になりにくくなったり、食べられるようになった。「食べる」「しゃべる」という行為はもちろんのこと、それらが可能にする人間のさまざまな営み、その先にある喜びまで口は支えている。そのことに積極的に取り組むだけでなく、口腔ケアの重要性を、広く、世の中に伝えることを。もっと多くの人の健康で豊かな生活を支えていくために。社会において、もっと価値ある存在として認められるために。

口は「生きる」の入り口です。

乙訓歯科医師会でも、アピールだけに終わらず様々な多職種、医療連携を図りながら地域住民の方の期待に応えられるよう頑張っていきます。

乙訓歯科医師会ホームページ　http://www.8020otokuni.com/